

切り花輸入の急増、資材価格高騰という逆風が吹き荒れる中、日本で花き産業総合認証プログラム(MPS)が動きだした。期待される役割を、岐阜大学応用生物科学部の福井博一教授に報告してもらおう。

(5回連載)

期待高まる



①

った。現在100人を超える生産者が参加し、その参加証明となるMPSマークを表示した花も市場に出荷された。今年5月からは晴れて「A・B・C」ランクの認証ロゴマークが付いた商品が店頭



に出回り始める。流通認証審査も今年1月からは晴れて「A・B・C」ランクの認証ロゴマークが付いた商品が店頭



MPSジャパンのマーク①と、5月から流通するABC認証マーク

昨年1月に生産者の認証制度となるMPS・ABCのデータ提出が始ま

った。現在100人を超える生産者が参加し、その参加証明となるMPSマークを表示した花も市場に出荷された。今年5月からは晴れて「A・B・C」ランクの認証ロゴ

マークが付いた商品が店頭に出回り始める。流通認証審査も今年1月からは晴れて「A・B・C」ランクの認証ロゴ

マークが付いた商品が店頭に出回り始める。流通認証審査も今年1月からは晴れて「A・B・C」ランクの認証ロゴ

現状

参加生産者100人超に

ある。生産環境の改善やマーケティングに対して意識の高い生産者もいれば、花き市場からの強い勧めに心して参加した生産者もみられる。ただ、多くの生産者は、社会評価や認証費用を考えるとメリットを計りかねているのが現状であろう。新しい取り組みは、まず意識の高いパイオニアから始められるのである。MPSの進展は、環境と品質を評価できる消費者との連携が重要な鍵となることは間違いない。